【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（中学校用）

都道府県名	三　重　県

Ⅰ　学校の概要（平成１５年５月現在）

学校名	香良洲町立香海中学校				
学　年	１年	２年	３年	計	教員数
学級数	２	２	２	６	１０
生徒数	４７	５２	５７	１５６	

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

・学習の基礎・基本の定着と自ら学ぼうとする力の育成のための指導方法の研究

２．研究内容と方法

（１）　実施学年・教科

＊１・２・３年生・・・数学（少人数学習）
生徒の理解度に差があり、個々への対応が必要と考えられるため。
特に３年生については、進路を控え、きめ細やかな指導が必要であるため。
＊１・２・３年生・・・英語（少人数学習）
１年生については、中学校で初めて本格的に学習する教科であるため、生徒の理解度の差を最小限にしたいため。
２・３年生については、これまでの研究成果と少人数授業への生徒の希望を勘案したため。
＊１・２・３年生・・・国語（少人数学習）
生徒のアンケート結果から、実施してほしいという希望が多かったから。
*実施教科が多いのは、研修を教職員全体のものにしたいから

（２）　年次ごとの計画

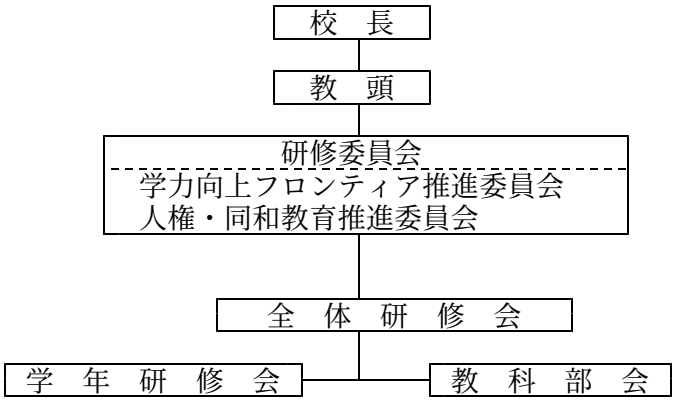
平成１５年度
○　テーマ
学習の基礎・基本の定着と自ら学ぼうとする力の育成のための指導方法の研究

○　研究の見通し
生徒個々の学力向上のための手だて

○　研究の内容・方法
少人数学習の授業研究　　教科別の指導法の研究
少人数学習のなかでの授業形態の工夫（一斉・個別）
教職員相互の意見交換　　学力向上に関する研修への参加・還流
個に応じた指導のための指導　　講師先生・指導主事を招いての研修

平成１６年度
○　テーマ
ひとりひとりの学習意欲を高め、基礎・基本を身につけさせる指導方法の研究
○　研究の見通し
習熟度別学習の実施
個に応じた指導方法の研修
○　研究の内容・方法
・少人数学習の継続
・習熟度別学習を実施し、学力向上のための授業の改善・工夫を研修する。

（３）　研究推進体制



Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

１．研究の成果

・　英語科においては、中学校で本格的に学習し始めており、中学校での積み上げという点で、分析ができる。そのため、９月に観点別の客観テストを実施した結果、次のようなデーターが出た。

＜１年生＞

内容・観点別項目	全国平均	校内平均
聞くこと	７７％	７５％
話すこと	８１％	８９％
読むこと	８１％	８７％
書くこと	５０％	７６％
総合	６４％	７９％
表現の能力	４７％	７２％
理解の能力	７９％	８１％
知識・理解	６７％	８５％

「聞くこと」以外はすべて全国平均を上回っており、少人数学習の成果が出ていると考えられる。

・国語科においても詩の鑑賞、説明文の読解以外は、すべて全国平均をうわまわっているという結果が出ている。

＜１年生＞

内容・観点別項目	全国平均	校内平均
放送による聞き取り	７１％	７３％
話し合い	６７％	７２％
小説の読解	６０％	６８％
説明文の読解	３９％	３６％
詩の鑑賞	６１％	５５％
漢字の読み書き・知識	６５％	６６％
総合	６５％	６８％
話す・聞く	６５％	６５％
書く	７６％	８７％
読む	５３％	５３％
言語	６５％	６６％

２．今後の課題

＜国語科＞
＜２年生＞

内容・観点別項目	全国平均	校内平均
放送による聞き取り	７７％	**７７**％
報告する	６２％	６１％
文学的文章の読解	５５％	４７％
説明的文章の読解	４５％	４２％
詩の鑑賞	５０％	３９％
漢字の読み書き・知識	７３％	６３％
総合	６４％	６０％
話す・聞く	６７％	**６７**％
書く	６５％	**６５**％
読む	５０％	４３％
言語	７３％	６３％

・「読む」の観点が劣る。その他の観点は６０％を超えている。
・文学的文章の読解では、場面、心情の読み取りが特に弱い。
・説明的文章では、段落構成、内容理解が弱い。
（対策）
　読むことは内容理解につながる重要な観点である。教科書にある文章等は、大変平易であるため、典型的な小説、あるいは説明文といったものを通して読解力を鍛える場がほとんどない。
　今回の結果から読解力をつける授業を展開していかなければならない。

＜数学科＞
（１年生）

内容・観点別項目	全国平均	校内平均
正の数・負の数	６７％	６２％
正の数・負の数の加減	５４％	５１％
正の数・負の数の乗除	６８％	６１％
文字と式	４８％	４５％
総合	６０％	５５％
見方や考え方	３１％	１８％
表現・処理	７１％	**７１**％
知識・理解	７６％	**７６**％

（２年生）

内容・観点別項目	全国平均	内平均
式の加法・減法	７７％	６８％
単項式の乗法・除法	６８％	６２％
文字式の利用	５２％	４１％
連立方程式とその解き方	５３％	４９％
連立方程式の利用	４５％	３０％
総合	５７％	４７％
見方・考え方	３７％	２９％
表現・処理	６３％	５３％
知識・理解	６７％	５８％

（考察と対策）
　学力テストの結果からわかるように、どの分野、どの観点についても全国の得点率から見ると本校の得点率は約１０ポイントほど低くなっている。
　細かく見れば、単項式の乗法・除法、連立方程式とその解き方のような単純な計算問題については、比較的全国得点率に近くなっている。しかし、連立方程式の利用のような思考力が必要な分野においては、得点率が低くなっている。

したがって、計算力のような単純な項目をもっと練習して、しっかり身につけさせるとともに数学的な思考力を身に付けさせるように授業を工夫していくことが必要であると考えられる。

＜英語科＞
（２年生）

内容・観点別項目	全国平均	校内平均
聞くこと	８３％	８３％
話すこと	８４％	８０％
読むこと	７２％	６８％
書くこと	５７％	５２％
総合	６７％	６３％
表現の能力	５１％	４３％
理解の能力	７８％	７５％
知識・理解	７４％	７１％

〔考察と方向性〕
数値からみるとどの分野も少々下回っているが、ほぼ全国平均に近い。しかし、「表現の能力」に関しては、８ポイントも低くなっていることから、少人数学習において、表現力に重点をおいてとりくむ確認を教科部会で行った。

＜社会科＞

内容・観点別項目	全国平均	校内平均
総合	６４％　（６０）	５８％　（５１）
思考判断	５９％　（４５）	４５％　（３６）
表現技能	６０％　（６８）	５６％　（６１）
知識・理解	７５％　（６４）	７２％　（５６）

（　　）内は２年生の得点率を示す。

＜理　科＞

内容・観点別項目	全国平均	校内平均
総合	６５％（６６）	６１％（５９）
科学的な思考	６２％（５９）	５５％（５４）
技能・表現	５９％（６３）	５４％（５７）
知識・理解	７５％（６９）	７３％（６７）

（　　）内は２年生の得点率を示す。

Ⅳ　学力把握のための学校としての取組

客観テスト（CRT）の実施＜９月、３月＞
・客観的、観点別のテストを実施することにより、生徒の学力の定着の度合いを分析し、授業の改善等に役立てることができるため
・生徒にも自分の実力を知らせ、学習の指針を示すため

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

・ 校内研修の充実
・ 平成１６年１１月初旬に研究発表会開催予定
　　少人数授業（国語科、数学科、英語科）公開授業
・ 先進校視察
・ 各種研修会参加、還流

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　[＊] １５年度からの新規校　□１４年度からの継続校

【学校規模】　□３学級以下　[＊] ４～６学級
□７～９学級　□１０～１２学級
□１３～１５学級　□１６学級

【指導体制】　[＊] 少人数指導　□Ｔ.Ｔによる指導
□その他

【研究教科】　[＊] 国語　□社会　[＊] 数学　□理科
[＊] 外国語　□音楽　□美術　□技術・家庭
□保健体育　□その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　□ 有　[＊] 無